

令和 7 年度 中河内在宅医療懇話会における主な意見（概要）

開催日時：令和 7 年 11 月 13 日（木） 場所：若江岩田希来里 5 階市民プラザ 会議室 A・B

1 中河内圏域における連携の拠点等の取組状況について

【連携の拠点における現状の取組みや今後の課題について】

（東大阪市）積極的医療機関の登録数を増やすため、要件を満たす意欲のある医療機関に声をかけている。また、第 8 次大阪府医療計画より以前から取り組んでいる ICT 整備についても補助対象とすることを希望する。多職種連携会議で ACP 研修を行う予定である。医師会では BCP の作成を進め、市内他の医師会と合同で災害対策会議を継続し、診療所の安否確認を目的とした情報収集訓練も実施した。在宅医療の 24 時間体制を補完するため、診療所同士の連携強化を医師会がサポートする予定。在宅医療の課題である認知症については、教育機関への普及啓発を行いたいと考えている。

（八尾市）前年度に在宅医療推進ネットワーク会議を発足し、積極的医療機関・連携の拠点・保健所で合同会議を行った。資源マップを作成し、ホームページへの公開と冊子の配布を行い、今年度は連携ツールを作成予定。しかし、病院と診療所での連携ツール使用には高度なセキュリティ管理が求められ、使いづらさの課題があり、妥協点を模索中である。

【多職種の視点からみた在宅医療における取組みや連携状況について】

（東大阪市）在宅歯科ケアステーションを設置し、在宅での歯科診療を行っている。薬局では市内の資源を有効活用するため、地域薬局機能の把握とリスト化を進めている。今後は高齢者だけでなく、小児・難病・精神の分野も在宅医療介護連携支援コーディネーターの対象として展開していきたい。連携において ICT の発展が必要である一方、顔の見える関係づくりも重要と考える。

（八尾市）在宅歯科医療の特殊性を研修で周知し、医療機関の協力を促したい。口腔管理体制事業を強化している。薬剤師会では情報共有システムの構築が課題であり、医療介護の情報の一元化を進めている。ACP 普及のための啓発活動を行い、初年度は連携の拠点と在宅医療推進ネットワーク会議を設置した。

(柏原市) 歯科医師会が在宅歯科医療を提供し、薬剤師会が災害時の救護所訓練を実施している。市内の医療体制を相談し、医療・介護の連携を進めている。

(全域) 軽度認知障害の高齢者の増加に備え、ACPを行える体制が必要である。訪問看護ステーション協会では、災害時に非常用電源を貸し出す体制を構築し、BCPを策定している。民間病院の運営が厳しい中、地域への積極的参画には経営面は切り離せない問題である。

2 各圏域で議題にした内容に関する意見

意見なし

3 その他

意見なし